

凧部日記 04 号

新生「白根高校凧部」の始まり(2015/06/19)

7年前から凧部顧問として生徒と共に巻凧作り・凧合戦への参加を続けています。

凧の本場・白根出身で凧合戦に興味のある生徒は、最初から地元の大凧組・巻凧組に加わって参加するので、結果として、本校部員の多くは「凧作り・凧揚げは初めて」という人が多くなり、地元の方々なら当然知っているであろう事を、一から学んでいかなければなりません。何よりも私自身がそうでした。

よく「全国的にも珍しい」と呼ばれる本校凧部は、過去7年間にテレビ3回・新聞1回の取材を受けるなど、けっこう知名度は高いです。しかし、以上の理由から、常に慢性的な人手不足に悩まされてきました。それでも、名人集団「わらじ組」の生野さん、本校の元職員の山際さんを始めとする地域の方々、卒業生や教職員などに助っ人として参加してもらい、ここ数年は活動し続けることができましたが、とうとう昨年度末には最後の部員2名が卒業してしまい、今年度は部員ゼロから始まるという、文字通り存亡の危機を迎えることになりました。4月になっても部員は1年生1名のみの入部で、合戦への参加どころか巻凧作りすら危ぶまれました。

ですが、今年から顧問となって頂いた下村先生のご尽力により、先生が担任をされている2年生の生徒たちが少しづつ助っ人として参加してくれ、最終的には8人の2年生が新規加入してくれました。私の知る限り過去最多の部員数です。下村先生、そして2年生の新部員の皆さんには本当に感謝しています。ありがとうございました。

新入部員も助っ人も凧作り・凧揚げ練習に熱心に取り組んでくれました。お陰で、凧合戦本番では、全員が指示を守って整然と動いてくれ、凧揚げに失敗して巻凧を中之口川に落としてしまう失敗がほとんどありませんでした。それどころか、対岸の凧と綱をからめるチャンスを何度も得て、綱引きまでこぎつけることができました。部員の多くが初心者という状況で、これは本当に大健闘です。一度でも参加すれば分かりますが、中之口川沿いの土手上の狭い道路を会場とし、そこに多くの大凧組・巻凧組が綱を張って全力疾走するのです。しかも、バランスを崩した凧が頭上から落ちてくるのは日常茶飯事で、全く気が抜けません。その中で、凧揚げをして合戦するだけでなく、誰一人ケガをせず安全に終了できたことは、全員が集中して取り組んだ証明であり、本当に素晴らしいことなのです。合戦終了後の会場清掃にも、部員全員で熱心にとりくんでくれました。

今年は、本当に良い凧合戦になりました。感謝申し上げます。

星野信明（凧部顧問）

